

広報 たてやま

6月

■昭和63年 6月号 (毎月15日発行) ■No. 447
■発行/館山市役所市長公室 〒294 館山市北条1145-1 ■電話22-3111



親子300人が参加 城山で親子写生大会

市と青少年相談員連絡協議会主催の第14回親子写生大会は、先月22日、城山公園で開かれました。

親子のふれ合いを深めようと、毎年実施しているもので、ボカボカ陽気に誘われた300人の親子が、参加。館山城や彫刻の径、頂上から一望できる市街地や鏡ヶ浦を画材に、お父さんやお母さんの手ほどきを受けながら、画用紙いっぱいに描いていました。



明治初期の館山名物

-39-

江戸時代になって道路網が整備され、人々の旅も安全にできるようになりましたが、文化の時代に、十返舎一九が書いた次さん喜多さんの道中記「東海道中膝栗毛」が大当たりすると、庶民の旅行熱はますます高まり、また旅に



『房州往来』(鶴川市 杉田哲章氏蔵)

も、一九が『房総道中記』を書いて名所名物を紹介しており、多くの人が乗用したことでしょう。房州の名所名物については、明治四年に大六村(現鋸南町)の松本菊女という人が『房州往来』を著し、大小杜寺の祭礼や法事、各地の名物を約二百件紹介して

います。市内だけでも数多くありますので、いくつかあげてみますと……
「船形・西の浜の鯨(このしろ)、川崎の水節、正木・八軒町のウリ、稲原の樹櫃(じゅだん)まゆみ、桑原の土佐蜜柑、湊・高井の西瓜、八幡松原の松露、北条の鑽通、新清・長須賀の薩摩芋、新井の枸杞の子、鷹の島の海雲(もづく)、沖の島の荒布(あらめ)、大賀・香の十八女(がうり)、波左間見物の鹿尾菜(ひじき)、洲崎・坂田の鯨(ひらめ)、坂足の大豆、坂井・布沼の豌豆(えんどう)、平砂浦の防風、佐野・藤原の初茸、布良の鱈(たかへ)、畑の鰯(とじよう)、永代の半夏生、作名の高嶺桜、古茂

皆さんの相談室です お気軽にどうぞ

児童

市福祉事務所で

専門の先生が子供の養育の問題点について相談を受けます。

心配ごと

毎週火曜日

登記・相続・人権

毎月第1火曜日
(専門相談員、司法書士による)
いずれも午前10時～午後3時

結婚

毎月第1・3日曜日

午前10時～午後4時

※いずれも市民センターで、
社会福祉協議会 ☎23-5068

市民

市役所市民相談室で

毎日午前9時
～午後5時

年金

市役所で、厚生年金など

7月15日(金)
午前10時～午後3時

消費生活
商品やサービスの苦情
毎月第1、三木曜日
市役所市民相談室
午前9時～午後4時

家庭教育

ことば、生活習慣、登校拒否、非行、性、いじめの相談など

月～金曜日 午前9時～午後4時

中央公民館 ☎23-3111へ

身障・精薄

毎月第4火曜日
午後1時～3時

※身障 伊賀病院
※精薄 田村第二病院

福祉事務所福祉係に
必ず事前に申し込みを

乳幼児

○乳児相談

(4か月児、10か月児)

7月6日(水) 保健センター
7月13日(水) 保健センター
7月20日(水) 那古地区公民館
午前9時30分～11時受付

○1歳6か月児健診

7月7日(木) 保健センター
1時30分～2時受付

○3歳児健診

7月28日(木) 保健センター
1時30分～2時受付
60年4月生まれ児対象

1年たつ「中里の家」生活指導

部門では、かわいい袋物づくり、慣れない手つきでも、一生懸命がんばっていました。戸外では、地元の人々の好意で、畑を借り受け、農耕に精が出ます。これらの作業を通じて、集団、社会生活を理解させ、収穫の喜びを味わうことなど、可能な限りの訓練が繰り返されます。作業のあとは、おやつや余暇活動、入浴と時間が流れます。歌の好きな人はカラオケに、テレビに熱中する人、ゆったりと過ごす人など様々です。夕食をすませて、九時消灯までは、自由に、のびのびと過ごします。

隣接する安房養護学校に通う子の父兄が中心になって、卒業後の受け皿がないという悩みを解消するため、運動をおこしたのがきっかけで、安房郡市広域市町村圏事務組合が設置主体になり、国、県の補助を受け、各市町村の負担金とともに、土地の購入から、建設まで手がけました。地元中里区の人たちの協力で、土地も安く買入れられることができた、およそ五億円をかけた立派な施設が完成し、社会福祉法人・安房広域福祉会が運営を受け持っています。

二人用と四人用の居室十五室に、五十人が寝起きを共にしています。食堂棟、作業棟、共同棟、管理棟のほか、園芸温室など六千四百三平方メートルの敷地に、

ようやく軌道にのった施設運営にも、一方では、悩みがない訳ではありません。施設に入所しているのは、ほんの一部で、まだまだ障害をもった人がとり残されています。

一例でも、養護学校を卒業した子が、その後の受け入れ体制がないままに、家庭に閉じこもってしまうのが現状です。全員が、このような施設で生活できたら、すばらしいのではないでしょう。これからは、この施設を中心に、より多くの受け皿を造ってあげられれば、父兄も安心して任せられるのです。

万全の体制で あかるく、健康に成長

「私は、中里ファミリーと呼んでいます」という施設長の言葉は、父兄はもちろん、むしろそれ以上に、家族同様に考え、信頼関係のうえに立った、生活のパターンが繰り返られていきます。「いろいろなあるんだな、にげんだもの、いろいろあるんだよ、生きているんだもの」、施設長室に掲げられた名言を見つめながら、さらに「あかるく、おとなしく、健康に暮らして欲しい」とつけ加えていました。

一例でも、養護学校を卒業した子が、その後の受け入れ体制がないままに、家庭に閉じこもってしまうのが現状です。全員が、このような施設で生活できたら、すばらしいのではないでしょう。これからは、この施設を中心に、より多くの受け皿を造ってあげられれば、父兄も安心して任せられるのです。

園の方針として、閉鎖的な生活を打開するため、年間スケジュールに基づいて、なるべく外へ出すようにという配慮も欠か

せません。バス旅行や野外散歩、祭礼見物、海水浴にと、単調で、無気力な生活に変化をもたせながら、能力の開発に努めています。いまでは、地元中里区の一員として、欠かせない要員に育っています。

最近完成したクラブハウスでのクラブ活動も、積極的にとり入れる計画も立てています。このように、施設全体が順調に運営されていることは、すなわち彼らが、共に成長していることを物語っていると云えます。

当面の課題として、「中里の家」の規模拡充を手がけたいと考えています。さらに三十人くらいの収容能力が得たいと、理事会の承認も受けていますが、資金づくりが難問題です。関係機関とも協議を進め、できるだけ早い機会に実現したいというのが願望です。

会話が励みに

訓練に大車輪!



明るい陽ざしが部屋いっぱい、に差し込む園内で、先生がたの指導のもとに、園芸や木工、陶芸、縫製、農耕に精を出す青年たちの目が輝きを増しています。精神に障害をもつ人たちが互に人を収容して、生活指導や作業訓練することで、少しでも社会復帰に役立つようにという目的

で、安房地域に初めての施設「中里の家」が、昨年の四月にオープンしてから一年がたちました。開設当時は、集団生活の経験のないことや、なかなか慣れないことで、統率のとれなかった面もあったり、排便に失敗したり、さみしさのあまりか、自由気ままに勝手な行動ばかりが目

朝は六時三十分起床。洗面、清掃が始まります。合図のチャイムで、自分の判断ですぐに動き出すのは何人もいません。先生がたの介護や、やさしいムチもたびたびです。それでも、困りを見ながら、隣りを気にしながら、毎日の繰り返しですが、自然に体で覚え、時間になると手が動き出します。

一時間後には、楽しい朝食。病気の時以外は、偏食に気づかうよりも、むしろ健康のため、減食させる工夫が必要です。当番を決め、「いただきます」のあいさつで、きちんと食べ始め、時間もたつぷりとります。食後の後片づけも大切な訓練のひとつで、厳しい口調の先生の指導は絶え間なく続きます。

休憩時間は、思い思いに過ごす。九時三十分になると、作業棟では、社会の一員としての自覚と責任を持てるようにと、作業指導が始まり、園芸、木工、縫製、陶芸、農耕にわかれ、午前中に二時間、午後一時間二十分の作業に汗を流します。

労働の喜び知る

ランの栽培を手がけ、成果物を販売し、労働の喜びも味わいました。木工の部では、縁台の出来ばえがすばらしく、好評で、注文も殺到しているとのこと。陶芸では、灰皿など小物の製作に熱が入ります。そのほか縫製

やさしいムチの連続で 自覚芽ばえ、意欲も...

立っていた園内も、日が経つにつれ、訓練を重ねるごとに、ひとつずつ体で覚え、今ではようやく落ちついた生活ができるようになっていきます。

入所者の能力や特性に応じて、生活に必要な指導訓練を繰り返すことで、社会への適応、社会

込み最後までやりとげ、人から喜ばれる勤労意欲の醸成。この三つを基本方針として、十六歳から五十歳までの重度精神薄弱者三十八人、中度十一人、軽度一人が、日課に基づいて、それぞれ規則正しい生活をしていきます。

届け出はすみやかに

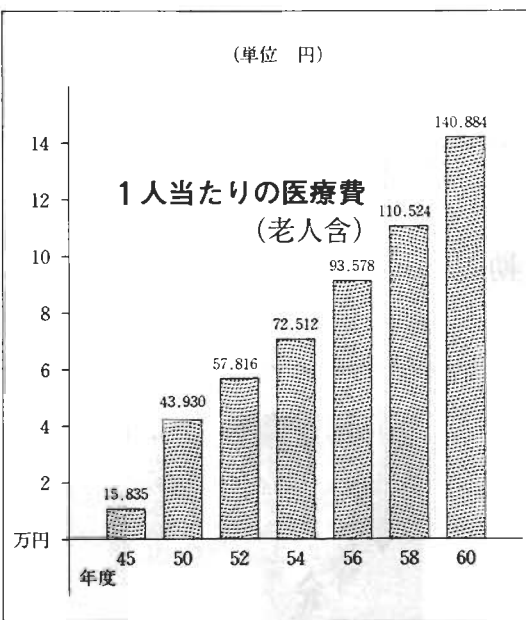
20歳になったとき
⇒資格取得届
(第1号被保険者)

会社員等になったとき
⇒資格喪失届
(第2号被保険者)

会社等を辞め、サラリーマンの
扶養になったとき
⇒3号該当届
(第3号被保険者)

年収90万円以上になったとき
⇒種別変更届
(第1号被保険者)

本市国保の医療費推移



なからも、国保はその根底を五十年間支えてきました。この間、医療技術は高度化し医療設備・機関も充実してきましたが、その反面、医療費の増加が、国保の財政を圧迫するという問題が出てきました。本市国保の統計で、昭和六十一年の医療費(自己負担分を含む)を四十五年のものと比較してみると、十五年間に約八・九倍にもなっています(表)。厚生省の国民医療費の統計と比較してみても約六・四倍と、同期の国民所得の伸びである約四倍をはるかに上回っています。

また国の予想では、今年の国民医療費は十九兆円に迫ると見込まれ、単純計算で、医療費は一人当たり年間十六万円。いかに医療費が高かがわかります。誰もが健康であることを望みながらも、いつ病気になるとも限りません。その時、上手に医療機関を利用して、いかに医療費を有効に使うかが問題になります。国保制度五十周年を契機に、自分自身の健康管理と合わせて、健康保険制度や医療機関へのかかり方についても、一考してみたいかがでしょう。

■国民健康保険は強制加入です。保険税はさかのぼって課税します。異動があったらすぐ届けましょう。

年金相談 第三号該当届 まだ未提出だが

問い 私(六十一)は四月以前から夫の扶養になっていたのですが、サラリーマンの妻の届(第三号被保険者該当届)を忘れていました。これから手続きして間に合うでしょうか。

すぐに手続きを

答え すぐに、市民課で手続きをしてください。七月三十日まで届け出をしないと、六十一(四月から六月までの三か月間が、保険料未納となります。六十一(四月にスタートした新国民年金制度では、厚生年金や共済組合に加入しているサラ

リーマンの扶養になっている妻は、第三号被保険者として国民年金に加入します。ただし、第三号被保険者は、届け出をして、確認を受ける必要があります。

この場合の保険料は、夫の加入している職場の年金制度(厚生・共済組合)がまとめて負担しますので、本人が納める必要はありません。しかし、この第三号被保険者該当届を、保険料納期限から二年以内に提出しないと、未納とされてしまいます。六十一(四月からの確認は、今年七月末までに届けば間に合いますので、まだ済ませていない人は、いまずぐにどうぞ。そのほか、左のような場合、届け出が必要ですので、忘れずに市民課年金係へどうぞ。



国保制度が50年 相互扶助に基づき

今年、国民健康保険制度ができて、五十周年になります。ご存じのとおり、現在我が国は、被用者保険(政府管掌健康保険、組合管掌健康保険、船員保険、共済組合等)に加入していない国民は、国民健康保険(国保)に強制加入することにより、国民皆保険体制となっています。皆さんが安心して医療機関にかかれるように、また、相互扶助の精神に基づいて、皆保険体制は存在し、数々の改正を重ね

国保の現状

ながら、国保はその根底を五十年間支えてきました。この間、医療技術は高度化し医療設備・機関も充実してきましたが、その反面、医療費の増加が、国保の財政を圧迫するという問題が出てきました。

本市国保の統計で、昭和六十一年の医療費(自己負担分を含む)を四十五年のものと比較してみると、十五年間に約八・九倍にもなっています(表)。厚生省の国民医療費の統計と比較してみても約六・四倍と、同期の国民所得の伸びである約四倍をはるかに上回っています。

また国の予想では、今年の国民医療費は十九兆円に迫ると見込まれ、単純計算で、医療費は一人当たり年間十六万円。いかに医療費が高かがわかります。誰もが健康であることを望みながらも、いつ病気になるとも限りません。その時、上手に医療機関を利用して、いかに医療費を有効に使うかが問題になります。国保制度五十周年を契機に、自分自身の健康管理と合わせて、健康保険制度や医療機関へのかかり方についても、一考してみたいかがでしょう。

この道 一筋に栄誉

天皇誕生日の四月二十九日、春の叙勲者が発表されました。市内の受章者は四人。活躍の分野は違っても、道一筋に苦勞を重ねた人たちにだけに、喜びもひとしおです。

大学教育に貢献

勲三等旭日中綬章
多田 顕さん

千葉大学名誉教授の多田顕さん(七十三歳、川名五六七)は、勲三等旭日中綬章を受章。

東京出身の多田さんは、昭和十五年、早稲田大学商学部の助手に着任。戦後は、一時、安房高等学校の教諭を務めた後、二十四年の千葉大学創立と同時に文理学部助教授に就任し、同学部教授、教養学部教授を歴任、五十五年(七十七歳、坂井七七二)は、勲四等瑞宝章を受章。文化大学大学院の教授を務め、



多田さん

高校教育29年

勲四等瑞宝章
山崎新蔵さん

「諸人に支えられての叙勲かな」と、心境を句に託す山崎新蔵さん(七十七歳、坂井七七二)は、勲四等瑞宝章を受章。昭和十二年、長野県中野高等女学校で初めて教壇に立ち、主に県外の女学校教諭を務めた後、戦後の混乱の中、二十五年に千葉県立茂原農業高等学校に着任。

刀鍛冶一筋

勲五等瑞宝章
石井昌次さん

刀鍛冶(かじ)の石井昌次さん(一〇号昭房、七十八歳、安布里六五)は、勲五等瑞宝章を受章。大正十三年から地元で刃物鍛冶の修行をした後、昭和九年に栗原昭秀氏の日本刀鍛練伝習所で日本刀鍛練技術を学び、十一年日本刀匠協会主催の展覧会で刀匠日本一の文部大臣賞を受賞。十四年に独立、市内安布里に日



山崎さん

本刀鍛練所を開設。その後、香取神宮、安房神社などへの奉納刀を製作し、その技術は高い評価を受けています。無形文化財としても、三十二年に市、三十七年には県の指定に。

「今まで、三百数十振を手がけてきました。欲を離れてやっていたので苦しいこともあったが、認められて大変嬉しい」と、静かに語ってくれました。

防衛に功労

勲六等宝冠章
高屋弥栄さん

勲六等宝冠章を受けた高屋弥栄さん(六十二歳、犬石一五四)は、今も市内の病院で看護婦長として活躍している人です。昭和十九年、日赤の看護婦養



高屋さん



石井さん

市立博物館「企画展」

岩崎巴人展

画僧岩崎巴人氏が描いた水墨画17点を紹介

会期 6月25日(土)~7月24日(日) 月曜休館
会場 市立博物館本館



「市民のひろば」への投稿をお待ちします。毎日の暮らしのヒント、身近な意見などを400字以内にまとめてお送りください。電話でもけっこうです。あて先は、北条1145-1、市役所市長公室広報係です。

あなたの健康は 全地区で総合検診



健康は、すべての生活の基本です。五月十日から、各地区で実施している総合検診は、先月末までに三千五百九十一人が受診。血圧、胸部レントゲン、検尿、問診、血液検査、心電図など同時に検診でき、今年から、肺がん予防に、喀痰検査も加わり、まさにミ二人間ドックといえます。受診率も年ごとに伸び、大きな成果を上げていますが、健康に対する自覚の表われでしょう。

それでも年をとると病気になるがちです。若いうちから検診を受け、健康管理に気をつけましょう。

花植えに専仕の汗 房南中で愛校活動



労働の喜びと、団体活動の育成を目的に、愛校活動を取り上げている市立房南中学校で、二日に花植え作業が行われ、三千本のマリーゴールドを植えました。

毎月一二回、日を決め、花いっぱい運動や校内外の環境美化、通学路の草刈りなど実施しているもので、今回植えた苗は、校内のハウスで育苗したもの。今後、生徒らの手で育てられます。

特色をあげた力作九十四点。寄せられ、日本写真家協会の三輪晃久氏らが審査。市の行事や観光行事に展示し、観光宣伝や、歴史ある館山、文化都市館山の紹介に役立てる計画です。

これからは年一回実施しますので、ぜひ応募を。今回の入賞者は次の人たちです。敬称略。

推薦：福永等夫(花壇と燈台) 特選：須田弥(春の宴)、西藤和夫(帰路)、入選：辻井俊雄、丸山茂樹、刈込勇、柳田吉夫、並木明、高橋力蔵、関口英雄、川崎一、高橋宏志、堀江朱海、目黒輝彦、山口正明、野田周一

クリーン作戦を展開 空き缶16万個収集



町をきれいにしようとして、「ゴミゼロの日」の六月五日、午前九時からいっせいに、市内各所で空き缶を中心に、クリーン作戦が展開されました。関東一都九県で定めたゴミゼロ運動は、今年で七回目。

各町内会や子供会、老人会など各種団体から一万四千人が参加。ポリ袋を手にも、道路わきや空き地の空き缶ひろい、夏を控えて、海水浴場などの海岸清掃に汗を流しました。

力の成果に、心を「スカッ」とさせていました。



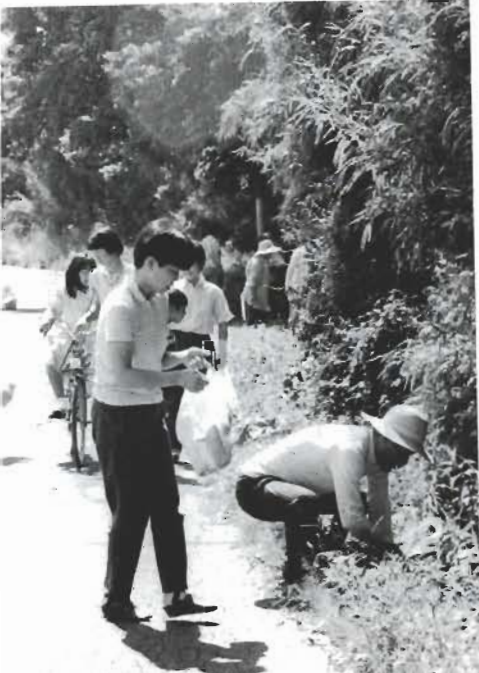
ニッケイ

子どもの遊びの中には、四季の区別があるものと、そうでないものがあった。ニッケイ掘りは、いつでも出来たが、掘る場所が二・三軒に限られていたので、手かげんが必要だった。木そのものは、どの家にも植えてあったが、掘り返して叱られる家は敬遠してしま



ニッケイは、中国南部原産のクスノキ科クスノキ属の植物で、日本へは約三百年前、帰化僧心越が持ち込んだのが最初であろうと、植物学者・白井先生の説があるが、あまり古い渡来植物ではない。城

この日集められたごみは、およそ十九トン。このうち、空き缶は六・五トン、ざっと十六万個です。二時間あまりの作業を終えて、積みあげられた空き缶の山を前にして、みんなの協



体力づくりにどうぞ 軽スポーツ教室を開催



インディアカを楽しむ受講生

参加料／三百円（保険料等）
定員／先着三十人
注意／運動のできる服装で、室内用シューズ持参
申し込み 往復はがきに、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記して、市教育委員会学務体育課（北条一四五一の二、電話二二二二一）内線二五へ。

参加しませんか 少年教室を開講

中央公民館で、親子陶芸教室と夏の天文教室の、二つの少年教室を開講します。受講料は無料（教材費等は自己負担）。夏休みの充実には、参加しませんか。

＜親子陶芸教室＞

親子で、粘土を使って茶碗や小動物を作ってみよう。

日時／八月七日（日）午前九時

三十分から午後三時、三十日（土）午前九時三十分から午後三十分、二十二日（月）午前九時三十分から午後三十分。
講師／石井豊氏、陶楽会協力定員／三十五組
＜夏の天文教室＞
夏の夜空を、天体望遠鏡で観察してみよう。

日時／八月十八日（木）、十九日（金）。時間は、いずれも午後七時から八時四十五分。
講師／安藤智氏、館山天文クラブ協力
定員／三十人
申し込み 六月二十日（月）から開講日の三日前までに、子供と保護者の氏名等を、電話で中央公民館（二二二二一）へ。申し込み多数の場合は抽選。

精神衛生の出張相談

保健所で、精神衛生の出張相談を行います。不眠や対人関係がうまくいかないなどの心配はありませんか。一人で悩まず、お気軽にどうぞ。老人のボケなどの相談にも応じます。時間は午後二時から三時三十分まで。
▽六月二十八日（火）
会場 神戸地区公民館
担当医 柴田耕三先生

第5回 新能

日時 8月27日（土）午後5時開演

会場 城山公園山頂（雨天の時は市民センター）

能 海士 梅若万紀夫

狂言 居杭 山本則俊

半能 熊坂 梅若万佐晴

▽前売券 指定A席 四千元、指定B席 三千元、指定C席 二千元

▽販売所 観光協会駅前案内所（二二二二一）

担当医 柴田耕三先生

障害児のための 巡回相談を開催

心身障害児の巡回相談を行います。小学校・盲・聾・養護学校への就学に関する相談と、心身に障害のある子どもの教育や保育に関する相談。そのほか、個人面接により、障害の改善・

克服のための養育・指導の内容についての相談などを行い、必要に応じて教育的検査も行います。主催は、県教育委員会。相談にあたるのは、障害児教育の専門家。相談は無料です。
日時 八月三日（水）午前十時から
会場 県立館山聾学校（那古一六七二の一、二二二二四九

○ 対象 幼児とその保護者（子供同伴でおいでください）。
申し込み 六月二十七日（月）までに、所定の申し込み書で市教育委員会学務体育課（二二二二一）内線二〇四へどうぞ。申し込み書は、学務体育課または市内各保育園、幼稚園にあります。

若者の事故が激増

スピード出し過ぎは危険

五月十九日の深夜、君津郡袖ヶ浦町で四人の若者が即死するという事故がありました。

この事故からでも分かるように、ことは若者による交通事故死が激増しています。それも、大半は「スピードの出過ぎ」が原因となっています。

ドライバーの皆さん、なぜ「スピードの出過ぎ」は危険であるかを考え、事故の再発を防ぎましょう。

○ スピードが速くなるほど、停止するのに長い距離が必要。時速四十キロの場合、停止する距離は二十二メートルです。三十メートルの歩行者を発見して、素早くブレーキをかけたとしても、衝突を避けることができません。時速六十キロでは衝突してしまいます。

○ カープでは車に及ぼす遠心力が大きくなり、横スベリやハンドルを取られ、ちょっとした運転ミスが重大事故に。カーブの手前では、必ずスピードを落とすことが大切です。

不用品情報

市は、皆さんの不用品交換のお手伝いをします。売り、買い、

犯罪捜査にご協力を

館山警察署

館山警察署管内の、六十二年中の全刑法認知件数（警察が知った犯罪の発生件数）は千六百七十七件で、六十一年度の千九百四十四件に比較して増加しており、ことしに入ってもますます増加の傾向にあります。

ことなどが多く、警察でその情報が得られなかったことから、犯人検挙に手まどつた例が少なくありません。そこで警察では、早く事件を解決し、安全で平穏な県民生活を確保するために、皆さんに次の点をお願いいたします。

※事件の発生を知ったら、直ぐに一一〇番を。
※被害にあったら、現場をそのまま、直ちに届け出を。
※犯罪について知っていることは、積極的に通報を。
※聞き込み捜査にご協力を。



救急当番医

7月3日
野原医院（内・外・児） 館山22—0333
東条第2病院（産婦） 鴨川2—2138

7月10日
小林病院（内・外・児） 館山27—3811
北条病院（内・外・児） 館山23—1966
清川医院（産婦） 館山23—7731

7月17日
西岬診療所（内・外・児） 館山29—0030
館山病院（内・外・児・産婦） 館山22—1122
山本医院（内・外・児・耳鼻） 千倉44—0899
若林病院（内・外・児・眼） 富山57—2538

7月24日
黒川医院（内・外・児） 館山22—0520
亀田病院（内・外・児・産婦・耳鼻・眼） 鴨川2—2211

7月31日
鈴木医院（内・外・児） 館山28—2010
赤門鈴木医院（内・外・児） 館山22—0008
和穎医院（内・外・児・耳鼻） 白浜38—2313
三橋医院（産婦・眼） 鴨川2—2135

みんなで応募しよう!!

情報 なんでも世紀

私は花づくりを始め約50年になり
ます。
そして、私の家の近くの山に、植えて
からちょうど50年くらい前のビワの木が
あります。調べに来てください。

館山市 館山一丸
山田 吾一(68歳・農業)
電話 ニミ一五八〇〇

マスコットキャラクター
椿の葉っぱのついたまがえり

理由 椿は市の花、まがえり
かわいいし、自然だから。

館山市 那
磯部 裕一郎(15歳)
電話 ニ七一〇三三三

イメージカラー
中くらいの緑、中くらいの青
理由 館山の豊かな自然と、明るい海
をあらわす。

館山市 塩見 六三(15歳)
山内 基美(16歳)
電話 ニ九一七二七〇

情報 その知りません。
私の家のすぐそばに古い池が
あります。そこにはメダカが
たくさんいます。自然に湧いたも
のです。

館山市 神余 六三
山崎 鈴江(36歳・主婦)
電話 ニ一〇一三三

郵便はがき

294-□□



館山市北条一四三
館山市役所
市長公室 行

●館山市の「イメージカラー」と「マスコットキャラクター」も募集 市民で《たてやまのいろ》《たてやまのマスコット》を考えて～!

館山市制施行50周年を迎えるにあたって、本市の豊かな自然、温暖な気候、あたたかい人情、明るい将来をイメ
ジする『色』と『かわいらしいマスコット』を募集します。

応募方法：(1)イメージカラー：「濃い」「中くらい」「淡い」の3種を指定して、〇〇色と記入。

〈例〉淡い〇〇色 選んだ理由も。

(2)マスコットキャラクター：動物、植物の名前を記入。選んだ理由も。

いずれも、ハガキに住所・氏名・年齢・電話番号を記入して〈〒294 館山市北条1145-1 市役所市長公室へ〉

イメージカラー、マスコットキャラクターの両方でも片方でも可。

応募期間 昭和63年6月15日～8月14日(必着)

決定方法 応募案を参考に専門家に製作を依頼し、選定します。

賞 イメージカラー、マスコットキャラクターとも、入選各3人に図書券1万円相当、応募者のう
ち10人に同2千円相当を贈ります。

館山市制50周年記念誌を市民の手づくりで

あなたの原稿・情報をください

昭和14年からの古い写真も探しています

私たちの街・たてやまは、昭和14年に館山市として誕生しました。来年でちょうど満50歳です。そこでいま、市制50周年記念誌「市民半島・たてやまえころじい（仮題）」の制作に取り組んでいます。

この記念誌は、市民全員で半世紀の生いたちをたどりながら、これからの街づくりを考え、話し合い、理解しあう共通の場——にしたいと願っています。

また、市民インタビュー・市民フォーラム・館山をイメージする人アートコンクール・市民が撮った〈わが街50景〉・ふるさと自慢〈なんでも半世紀〉・リゾート市民のもの知りマップ・証言〈あの日・あの時〉など、さまざまな企画に、なるべく多くの市民が参加し、発言し、誌面に登場する、市民手づくり記念誌にしたいと思いますので、下記の写真・エッセー募集、情報収集などにご協力ください。

■あなたの作品・情報を誌面に生かして下さい！■

（応募された方には記念品を差しあげます）

●写真募集 〈市民が撮った：わが街50景〉……×切り 昭和63年8月15日

応募要領：館山市全域を対象とした風景・人・物・動植物・建築物などなんでも。なるべく住民の目でとらえた生活ぶりなど多種多様なもの。応募作品には〈住所・氏名・年齢・性別・職業・電話番号・撮影場所〉を明記したメモを必ず添付して下さい。

カラープリント。サイズはサービス判（つや消し、ふちなしプリントは使わないで下さい）。一人で何点でも結構です。

※応募作品のうちから50点を「わが街50景」として記念誌に掲載させていただきます。

●作文募集 〈半世紀の軌跡：あの日・あの時〉……×切り 昭和63年8月15日

応募要領：昭和14年以降の思い出で、苦しかったこと、楽しかったこと、悲しかったこと、珍しかったこと……あなたの記憶に残っていることや、大切にしていることなど、書きつづってみて下さい。簡単なメモでも結構です。文字数は400字程度。原稿には必ず〈住所・氏名・年齢・性別・職業・電話番号〉を明記して下さい。

※応募作品の中から、20篇から30篇を「半世紀の軌跡：あの日・あの時」として記念誌に掲載させていただきます。

●情報募集 〈ふるさと自慢：なんでも半世紀〉……×切り 昭和63年8月15日

募集内容：花を作って半世紀の人・漁を始めて半世紀の人・植えてから半世紀の樹木・卒業してから半世紀の人・建ててから半世紀の家など、物・人・動植物なんでも結構です。自薦・他薦を問いませんから、ホットな情報・ユーモラスな情報をメモしてお知らせ下さい（ハガキか電話で）。ハガキには必ず〈住所・氏名・年齢・性別・職業・電話番号〉を明記して下さい。

※寄せられた情報のうち、20点から30点の写真と解説を「ふるさと自慢：なんでも半世紀」として、記念誌上に発表します。

●情報募集 〈リゾート市民のもの知りマップ〉……×切り 昭和63年8月15日

募集内容：市内で埋もれている文化財・石碑・句碑・歌碑・珍しい植物・古い建築物・美しい景観など、市民が知ってほしいこと、大切にしてほしい情報など、どんなことでも結構ですからお知らせください。文化的で質の高いリゾートタウン・たてやまを築いてゆくための一歩として、住民が街をよく知り、愛していくことに役立てたいと思います。（ハガキか電話で）

※寄せられた情報を整理して「リゾート市民のもの知りマップ」として記念誌上で、わが街のきめ細かな探訪と紹介をいたします。

●古い写真と記録を探しています！……至急ご連絡ください。昭和63年7月末日までに

館山市が誕生した昭和14年から現在までの市内の風物・風俗・民芸・人物など、さまざまな古い写真を探しています。特に、市誕生当時から昭和30年代前半頃の写真がほとんどありません。古い写真をお持ちの皆さん、あるいは、お持ちの方をご存じの方は至急ご連絡下さい。集まった写真は「半世紀の軌跡」を知る貴重な資料・記録として、記念誌に掲載します。

お借りした写真は複写して必ずお返しいたしますので、ご協力をお願いいたします。

※お借りする古い写真以外の応募作品はお返しいたしません。写真をトリミングする場合や、無断で文章に手を加える場合がありますのでご承知下さい。

●応募先（ご連絡・お問合せ）：館山市役所市長公室（〒294）館山市北条1145-1 ☎0470-22-3111（内線202・203）